様式５

平成２８年度　学術振興基金助成による成果報告書

平成２８年１２月２２日

学　長　　殿

所属部局・職名　人間発達文化研究科

申　請　者　名　鈴木　庸裕

助成事業の区分 (該当するものに○印)	研究協力に関する事業（学会等運営）
事　業　名	日本学校ソーシャルワーク学会東北部会主催・スクールソーシャルワーク講座 ―いじめ予防と子どものしあわせをめぐるソーシャルワーク― （弁護士会・社会福祉士会とのいじめ問題対策合同シンポ）
事業実施期間	平成２８年１１月２６日
成果の概要	スクールソーシャルワークは、子どもの最善の利益を重んじ、すべての子どもが自ら生きる力を獲得し発揮できるようになることを目指している。 その中で、近年、いじめによる自殺（自死）問題など、痛ましい事件が東北のいくつかの県でも重なり、いじめ防止対策や学校事故問題に対応する教職員やスクールソーシャルワーカーの役割が高まっている。 この講座とシンポジウムでは、いじめ防止対策推進法の取り組みについての理解を深めるとともに、教師と専門職がチームになって予防的活動や調査活動、事後対応、学校づくりをいかに進めていけばよいのかについて考えることができた。 内容は基調講演：「内側から変わっていく力」を学校が取り戻すために―学校事故・事件の調査・検証作業で大事にしてほしいこと―」、講師：住友剛氏京都精華大学教授、シンポジウム「いじめ予防と子どものしあわせ」、報告者：倉持恵氏（弁護士・福島）、山本操里氏（精神保健福祉士・宮城）高瀬芳子氏（社会福祉士・福島）、司会：鈴木庸裕であった。 参加者は、小中高の学校関係者、学生・院生、スクールソーシャルワーカー、スクールカウンセラー、市民、マスコミなど80名であった。 いじめ防止対策推進法の扱いやその取り組みにおいて、最前線にいる者たちが、人権教育の実際や課題、そして調査委員会のあり方や運営上の課題などを伝えることで大きな発進力になり、本学会の事業指針に添うものとなった。